

隠喩的表現における面白さと見劣り効果の関係の検討

A study of relationship between humorousness and diminishment effect in metaphorical expressions

中村 太戯留^{†1}, 松井 智子^{†2}, 内海 彰^{†3}

Tagiru Nakamura, Tomoko Matsui, Akira Utsumi

^{†1} 慶應義塾大学, ^{†2} 東京学芸大学, ^{†3} 電気通信大学

Keio University, Tokyo Gakugei University, The University of Electro-Communications

^{†1}tagiru@sfc.keio.ac.jp, ^{†2}matsui@u-gakugei.ac.jp, ^{†3}utsumi@inf.uec.ac.jp

Abstract

In humor appreciation, the simultaneous activation of two incompatible meanings, that is, an ordinary one and a diminished one in value or importance, is essential as well as the incongruity-resolution model. This study is an attempt at revealing diminishment effects in metaphorical humorous expressions. Forty-four university students were participated in this experiment, and judged degrees of following impressions about words in metaphorical humorous expressions before and after reading the expressions: “important,” “valuable,” “holy,” “graceful,” and “enjoyable.” When the expressions were presented, the degrees of following impressions decreased: “valuable,” “holy,” and “graceful,” especially in “holy.” Therefore, the diminishment effects were suggested to be involved in metaphorical humorous expressions.

Keywords — metaphorical expression, humor, diminishment effect.

1. はじめに

隠喩的表現の面白さを判断する際、見劣り効果が重要な役割を果たす可能性が示唆されている [2, 3, 4]。見劣り効果とは、不調和な2つの解釈の同時生起 [1] において、初めの解釈よりも、重要性や価値が低下し、見劣りする2つめの解釈が面白さの判断において重要という見解である [6]。例えば、“コロッケと掛けて、結婚式と解く。その心は、あげたてがアツアツ”という表現では、“結婚式”の重要性や価値がこの表現全体として低下すると考えられる。これは、不調和=解決モデル [5, 6] と並んで、ユーモア理解の重要な認知機制と考えられている [6]。本研究では、面白さの強い隠喩的表現 [4] において、オチを提示する前と後とで印象がどのように変化するかについて、実証的に検討することを試みた。

2. 方法

実験参加者 44名(女性13名, 男性31名, 20.9才 [SD: 2.71; 19~32才])が実験に参加した。

刺激 “Aと掛けて、Bと解く。その心は、X”という形式の表現を用いた。刺激は、先行研究 [4] で使用したもののうち、面白さ度が50%以上の刺激を用いた。各刺激は、質問紙の裏表を用いて実験する形式をとった。まず、質問紙の表面に“A”を表示し、その印象を7件法(ポジティブなものが7点, ネガティブなものが1点, 中間的なものは4点)の5つの形容詞対で評価してもらう欄を設けた: 「重要な - 重要でない」「価値のある - 価値のない」「神聖な - 卑俗な」「上品な - 下品な」「楽しい - 悲しい」。引き続き、“B”を表示し、同様に7件法での評価欄を設けた。そして、裏面の一番上に“Aと掛けて、Bと解く。その心は、X”という形式の表現を表示し、その後、表面と同様に7件法で評価してもらう欄を設けた。質問紙は合計で18表現分用意した。

手続き 実験参加者の負荷を考慮し、ランダムに分けられた半数の刺激を半数の実験参加者に、他の半数の刺激を他の半数の実験参加者に評定してもらった。実験参加者には、まず各質問紙の表面の評定をもらい、その後裏返して隠喩的表現を読み、そして裏面の評定をもらった。これを割り当てられた表現分繰り返し、最後にフェイスシートに回答してもらった。

解析 “A”についての5つの形容詞対の評点、“B”についての5つの形容詞対の評点、の合計10個の評点に対して(隠喩的表現を見る前と後とでの変化 [被験者内効果]) × (18表現 [表現の差の効果]) の分散分析をおこなった。

3. 結果

“A”に関しては有意な低下は認められなかった。一方、“B”に関しては「価値のある」は5.11から4.91へ(変化: -0.202 ; $F(1, 43) = 8.221$, $p < .01$)、「神聖な」

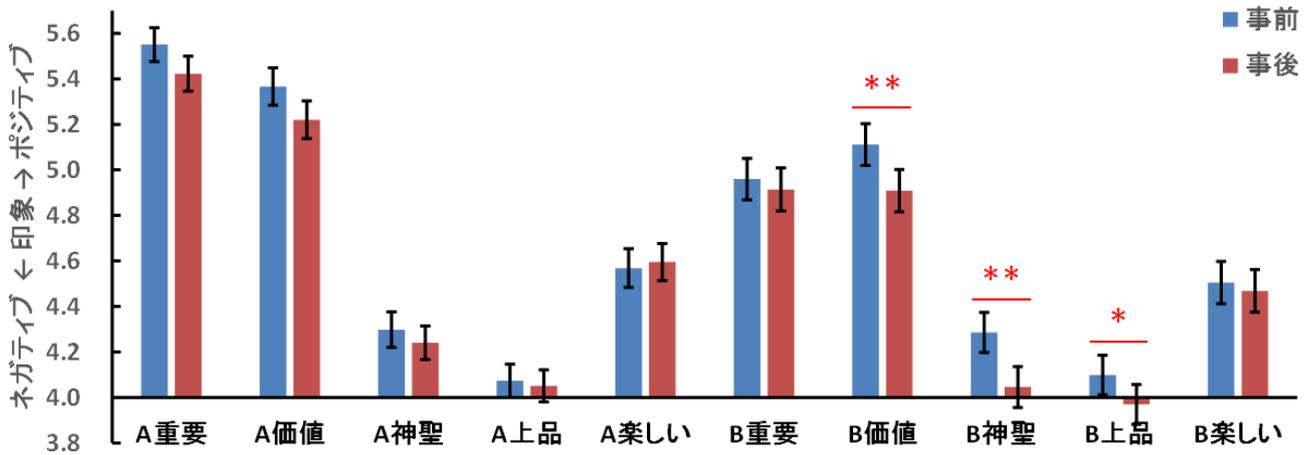


図1 見劣り効果：“A”と“B”の印象における隠喩的表現の提示前後での変化

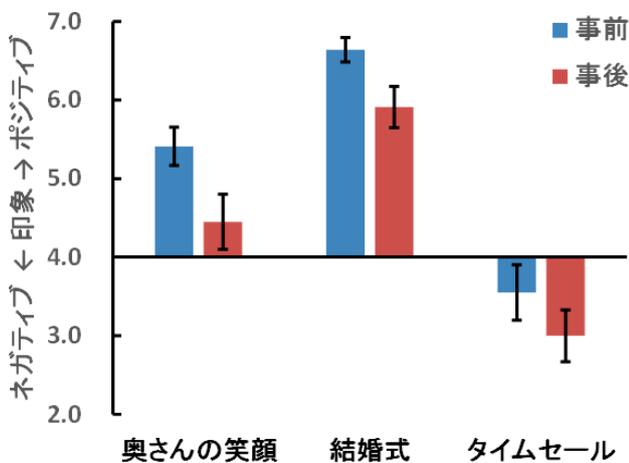


図2 “B”の「神聖な」の見劣り効果の大きい事例

は4.29から4.05へ(変化: -0.240 ; $F(1, 43) = 11.243$, $p < .01$)、「上品な」は4.10から3.97へ(変化: -0.129 ; $F(1, 43) = 6.197$, $p < .05$), それぞれ有意な低下が認められた(図1)。また, “B”の「神聖な」の低下に関して, 平均値 + 標準偏差よりも大きな低下を示した表現は次の3つであった(図2): “貯金と掛けて, 奥さんの笑顔と解く。その心は, なくなると怖い”(5.41から4.45へ; 変化: -0.95 [-15.8%]), “コロッケと掛けて, 結婚式と解く。その心は, あげたてがアツアツ”(6.64から5.91へ; 変化: -0.73 [-12.2%]), “風邪と掛けて, タイムセールと解く。その心は, オカンが走る”(3.55から3.00へ; 変化: -0.55 [-9.2%])。

4. 考察

先行研究[4]の面白さ度が50%以上の刺激に関しては, “Aと掛けて, Bと解く。その心は, X”という形式の表現のうち, “B”の印象が, オチ“X”を提示する前後で低下, すなわち見劣り効果が関与する可能性

が示唆された。具体的には, 「価値のある」「神聖な」「上品な」という項目に関して, 有意な見劣り効果が認められており, 「神聖な」の変化が一番大きくなっていった。例えば, “奥さんの笑顔”の「神聖な」は比較的ポジティブな評定値ではあるが, 約16%ほど印象が低下している。“結婚式”の「神聖な」はかなりポジティブな評定値ではあるが, それでも約12%ほど印象が低下している。一方, “オカン”の「神聖な」はもともとネガティブな評定値ではあるが, さらに約9%ほど低下している。また, 見劣り効果は重要性や価値の低下と考えられているが[6], 本研究の結果は, 重要性というよりはむしろ価値の低下が重要な役割を果たしている可能性を示唆している。これらから, 面白い表現の場合には印象の低下, 具体的には今回の場合であれば「神聖な」という印象を中心とした価値の低下, すなわち見劣り効果が関与している可能性が示唆された。

参考文献

- [1] Apter, M. J. (1982). *The experience of motivation: The theory of psychological reversals*. London: Academic Press.
- [2] 中村太戯留 (2009). 隠喩的表現において“面白さ”を感じるメカニズム. *心理学研究*, 80(1), 1-8.
- [3] 中村太戯留, 松井智子, & 内海彰. (2013). 隠喩的表現における面白さの強度の検討. *日本認知科学会第30回大会予稿集*, pp.634-635.
- [4] 中村太戯留, 松井智子, & 内海彰. (2014). 隠喩的表現における面白さの強度と理由の関係の検討. *日本認知科学会第31回大会予稿集*, pp.827-828.
- [5] Suls, J. M. (1972). A two-stage model for the appreciation of jokes and cartoons: An information-processing analysis. In Goldstein, J. H., & McGhee, P. E. (Eds.), *The psychology of humor: Theoretical perspectives and empirical issues*, 81-100, New York: Academic Press.
- [6] Wyer, R. S., & Collins, J. E. (1992). A theory of humor elicitation. *Psychological Review*, 99(4), 663-688.